



アバン仙台 Jr. Youth News 2018年 10月号

第48回

2018年度 U15最後の公式戦は熱く戦い抜いた

高円宮杯 結果



09月17日(月・祝) vs 青葉FC アバン 0 : 0 青葉FC

【戦評】 今回の対戦で公式戦3戦目。幾度も対戦し、後半に6失点以上の試合もありました。この対戦では、相手の個人技の連係を封じながら攻めることを意識しました。

左の写真の①～④に表れているように『アバンツァーレの戦士』と言えばというプレーもリーグ戦を通して見られるようになってきているチーム状態でしたので、これまで負け越している相手に対してぶつけていくことに努めました。

この試合、敗ければ引退になるという3年生特有の雰囲気、緊張感、危機迫る様子。と同時にこれまで共に活動してきた仲間だからこそ出てくる一体感。

ウォーミングアップの時には、ある選手が右手にアバンカラーの赤色のテープを手首に巻いていたのが恒例でしたが、この日は全員がそれぞれの手首に巻きました。

また、私個人としても嬉しかったのは、「円陣の掛け声」です。3年間で一番、雰囲気と一体感を感じる声が出ていました。

そして試合開始と同時に全員で走り出します。ある程度の相手のボール保持率、コーナーキックの本数が目立ちましたが、前半は凌いで無失点。②③④のような身を投げ出すように相手の得点チャンスを防ぐ場面が後半も続きます。

ですが、ふとした隙に相手にぬけ出され失点。それから後半のこり15分で2失点。最後にはここまで頑張ってきた走力が止まり出しました。ただ、私が観る限り、眼の色、力は諦めず力強かった。そして、最後までチームをこれまで鼓舞してくれる声をかけ続けてきた、そして走って見せてきた選手も万全でない中、歯を食いしばってプレーしていました。でも、それに甘えることなく最後までプレーした選手たちを誇りに思います。遅くはない。その姿を見せてくれた皆さんに感謝しています...

① アバンのドリブル ② ねばり強さ ③ ねばり強さ(2)



④ 走り



①の写真に写る2年生の荒井ゆうき君。アバンと言えばドリブル。というイメージを感じさせるドリブルで再三仕掛けゴールに向かいチャンスを作りました。新人戦も頑張れ!!
②-④の写真。『ねばり強い、ねばり強く走る』というのもアバンの選手の姿勢であり、特徴です。こういった場面がU15公式戦の後半から随所に表れていました。
こういった姿をクラブも目指し、その取り組む姿勢から、時には結果からも選手が自分で感じ、そして次なるステップに向けて、走り続けてほしいと思っています。

クラブユース新人大会に向けた取り組み

感心した出来事

10月からは新人大会が始まります。中学2年生以下がメインとなる大会です。これまでのアバンの最高成績は9位です。今年の大会の目標は、上位(1位～8位)トーナメントに進出すること。自分たちのやれることをやりきること。です。

- 日頃のコンディション管理をすること
- 試合でベストを尽くすこと
- 集中した質の高い練習をすること


大きく分けたときに、一人の選手がやれることはそこまで多くはないのです。この3つを徹底してやれるか。やってきたか。が成果として試合に表れるものです。

今の現状・自分を見た時にやれていれば継続するのみであり、もし、足りていない。もっとやれると感じるのであれば今から取り組み方を変えることでこれから先の自分を変えていくことが必ずできます!

ある選手は、「チームの長所を考へ、こういうプレーを増やしていった方が良いと思います。コーチはどう思いますか?」と考へもって取り組んでいます。このような選手がちらほら出てきています。意見は的外れでもなくチームのことが見えている意見でした。

意見が合っているとか間違っているということではなく、一選手として自分のやるべきことをやりながらチームのことを見て考えることができる選手がもっと増えていくことが今後のチームが良くなることと選手の成長に繋がると確信しています。

大会中でも価値ある期間にできるよう取り組みたいと思います。応援よろしくお願ひします!



柳 相宇 くん

今回、紹介するのは1年生の柳相宇(りゅう さんう)君。そんな相宇くんが参加した9月25日(火)のテクニカルスクール名取室内練習場での出来事を紹介したいと思います。相宇くんに感心したのは「挨拶のやり方」と後に知る挨拶への考え方です。それは小学生のあるお母様がテクニカルスクールの前の実戦クラスを見学していました。そこへ相宇くんが2歩3歩と歩み寄り、眼があってから丁寧に「こんばんは」と一礼したのです。すごいと思いました。

昨年度、卒業したOBにも同じ学校に通いその選手もまた握手する時の礼儀作法が素晴らしいかったです。相宇くん挨拶が丁寧なのはどうして?と尋ねると「挨拶をしかりすれば、挨拶をされた人もした人も良い気持ちになれるし、何よりも挨拶は大切なことです。」と話してくれました。

相宇くんも日頃から習慣としてきた挨拶の丁寧さ、そして相手への敬意の気持ちを感じた挨拶でした。改めて、「挨拶」の大切さを彼から感じた瞬間でした。

皆さんも、「挨拶」に当たり前にせず、まずは家族など身近な人からでも今まで以上に丁寧に挨拶をしてみましょう。

Where there is a will, there is a way.
(意志あるところに道は開ける。)

『思春期』の選手と保護者皆さまへ

日頃より、保護者皆さま、アバンツァーレで活動する選手みなさんにはお世話になっております。皆様のご理解とご協力を賜り、アバンツァーレも20周年目を迎え、その間にもジュニアユースが11期まで活動してこれました。ありがとうございます。

その11期の間に卒業していった1期生～5期生にあたる選手たちも社会の一員として現在は汗を流し働いております。そういった選手にも『思春期』を経て卒団する頃には、一つ『感謝』の気持ちや選手によっては『後悔』など様々な思いを感じて旅経っていきました。

そして、現在の中学3年生も活動に一区切りをつけ受験に専念することとなりました。この選手たちもまた、『思春期』真っ只中にあり、感情の起伏や周囲の同年代の交流や情報の中にいます。今回はそういった部分に注目してみたいと思います。

その前に、皆さんのコーチとして活動する鳥山コーチにもまた思春期がありました。とても多感な中学生だったのだから、とても恥ずかしいですが紹介したいと思います。ひょっとすると中学生皆さんもまたそういう多感で過敏な時期にあることと思いますので、少し長くりますが読み進めてみてください。

鳥山少年は正直、勉強が嫌いでした(笑)。朝から夜までサッカー漬けでした。授業中はどこかの空でサッカーのことが頭の8割をしめていました。授業用ノートにプレーイメージや自主練メニューをよく書いていました(笑)。

そんなコーチの楽しみにしていた教科といえば『音楽・技術・美術・家庭科・体育』といった実技教科でした。この時間を楽しみに学校に通っていましたが、その中でもやはり『体育』に関しては唯一モチベーションが高く自分でも生き生きしていると感じました。

でも、勉強が決して5教科全部が嫌いなのではありませんでした。少し変わった感覚で5教科が好きでもありました。

例えば、『英語』は単語の『発音』が好きでした。『社会』は人物や地理の時間で絶景な写真を見ることや風土を知ることに興味を持ちながら授業を過ごしていました。

ここからは、そのコーチが当時そう思っていたこととその様子です。コーチは自分の生活リズムを大事にしていたため、その頃は『邪魔されたくない』という想いが強すぎ、母親にさえ八つ当たりしていました。

その理由は本当に些細です。『勉強しなさい』と自分がやらないから促されているだけなのに、...イラついてみせたり。またそのイライラも尋常じゃなく、家族が例えば漬物を食べる際に口を明けて噛む音をたてようものなら、『やめろ!』と怒鳴り声で言いつけ席を立てておたりと、とにかく尋常じゃない過敏な状態でした。

今、思えば、...申し訳なきばかりです。とにかくサッカーが上手になりたい。公式戦を勝てないチーム強くしたい。それしか考えたくありませんでした。

でも、ある時、感謝するのです。父親が引退前の最後の大会、初めてプレーする姿を観に来てくれたのです。そしてそれは母親の想いも汲んでのことでした。その試合、敗戦はしたものの、いつものように『お帰り』『ご飯』、そして夕飯の落ち着いたひと時をくれた両親に、支えてくれたことに感謝しました。

こんなにも心が揺れ動いた時期は中学生の時だけでした。それから勉強も少しずつですが頑張り、大学まで通わせてくれた両親と関わってくれた先生や仲間未だに頭が上がりませんし、感謝しています。

では、ここからはジュニアユースの活動を終えた後の3年生、栗原くんとの会話の一部分から抜粋して紹介します。

- 自分の現在についてどう感じるかという問いかけについて。
『僕はある程度、親に自由にさせてもらっているんで感謝です。ただ、普段の仲間という自分はキレやすいので、キレていることが多いですね。』
- 小学生から現在までの間でエピソード、あるいは高校生としての活動に向けて今、感じることは？
・ コーチは、最後までチームのために走ってくれたことに感謝していますが？
『正直、情けないって思います。ちょっとしたことで怒っていたんで、自分はまだまだです。改めて自分のレベルの低さを知りました。でも、これからが勝負です!』といった会話のあとで改めてコメントをくれたので紹介したいと思います。

『アバンツァーレでの5年間』

僕は、小学5年生から中学3年生までの5年間でいろいろなコーチや仲間に出会えました。コーチには生活面や技術的な面などを教えてもらいました。

中学生になってからの僕は、思春期でコーチとも言い合うこともありました。今考えると感情的になってバカだなと思うけど、言ったから深く話せたり、自分の考えを言えて良かったと思います。

ただ自分は試合中も自分のプレーなどにイラついて仲間に強い言葉をかけたりすることもありました。それでも、文句を言わないでこれまで一緒にプレーしてくれた仲間には本当に感謝しています。

MJリーグ、クラブユース、高円宮杯でも一勝も勝ちとることはできなかったけれど、このチームでみんなと3年間プレーできたことはとてもよかったと思います。

そして、最後に...これまで僕を自由に育ててくれたお父さん、お母さんに感謝しています。ありがとうございます。

以上のように多感な時期にいる中学生皆さんもこれから心が揺れ動くでしょうが親と仲間の存在が大事です。クラブのコーチも見てくださいよ。活動できていることに感謝しつつ自分の心を磨き、生活習慣の中で少しずつ自立していきましょう。

テクニカルレポート

今回、皆さんに伝えたいことはU15でもトッププロでも大事であり、『普通レベル』を『高いレベル』に感じる部分です。

それは...『コントロールスピード』

これは、コーチもこれまで、U15年代を観てきて感じたこと。クラブユース東北大会でも、小学生年代でも、トッププロの選手の試合を観ていても当然のように観てほしくない部分です。

一見、『凄いドリブル』、『凄いパス』、『凄い連携』の中にも走力と共にボールを操る速さ、パスが巧みな中にもボールを止める位置が正確だからこそボールを蹴るまでの速さが出る。

そして巧みで緻密な連携の中にも、『観察力』と『判断の早さ』による的確でタイミングよいポジショニング。

コーチはサッカーの中で起きている『速さ(早さ)』をいつも注目して観ています。そこに『上手さ』『巧みさ』『緻密さ』が入っているからです。

その中でも今回は、ガンバ大阪の遠藤保仁(えんどうやすひと)選手、川崎フロンターレの中村憲剛(なかむらけんご)選手、そしてヴィッセル神戸に電撃移籍した元・スペイン代表、元FCバルセロナの絶対的司令塔のアンドレス・イニエスタ選手などに見られるボールを『止めて』から『蹴る』までの速さです。

まずは、とにかく速いのが印象強いです。特に大切なポイントとしてはボールを止めるまでを急がないことです。自分の足元にボールを呼び込む上手さもあるのですが、ボールを止めた時の体勢とボールを置く位置から相手の予測より速く、精度高く味方や空いているスペースにちょうどいいパスの強さとタイミングよく出されています。

こういうプレーに上手さ、そして鳥肌がたちます。どの選手にもそれぞれのボールの持ち方や置き方、パスを出すタイミングはありますが、...コーチの中では上記にあげた3選手のプレーはぜひ、参考にしてもいいと思います。

トレーニングとしては特に特別なことはありません。2人組でも3人組でも、対面パスでも三角形でのパス練習でも、

大事なことは、止めることを急がないこと

です。ここをせかせかと止めるのではなく、まず止める位置までは大事にして、そこから軸足の踏んで蹴るまでを早くする意識を強くもって練習していきましょう。

ある選手の成長



今回、紹介するのは3年生の菊地翼(きくち つばさ)くん。

小学生の頃はDFやGKも経験してきた翼くんは、ジュニアユースの活動をスタートさせたU13リーグから身体の大きさもあり小学生とは真逆のFWとしてプレーすることとなります。今、思えば葛藤との戦いのスタートでした。

もちろん、FWとしてのノウハウも中学生になってから覚えることがらでした。たくさんコーチに声をかけられた選手。正直、とても期待と心配の大きかった選手の一人名でした。攻撃の要としてコントロール技術やプレー判断に苦労しましたが、一番成長した選手でもあります。右の写真は最後となった高円宮杯でのシーンです。

球際も強くなり、特にインサイドのコントロールが上手になり、攻撃に守備に貢献してくれました。その成長に心から感謝しています。

菊地 翼 くん

※ Facebook でもチームの活動について紹介していきますので、ぜひジュニアユースの情報を見てみてください。